公益社団法人建設荷役車両安全技術協会長野県支部

建荷協長野県支部通信

〒380-0872
長野市妻科426-1
長野県建築士会館4F
TEL 026-232-2880
FAX 026-232-6606
http://www.sacl-nagano.jp

第3巻　第2号　　発行日　平成27年8月3日

ドラムテング：フォークリフトのブレーキドラムの脱着を安全に行う治具（平成26年度**考案賞銀賞**：本部ホームページをご参照ください。）

1　地域協議会会長会議開催される

6月18日、ホテル国際21において、平成27年度地域協議会会長会議が開催され、各地域協議会の会長及び副会長が出席されました。

会議では、昨年度の巡回指導実施結果が報告され、改定された地域協議会設置要綱、巡回指導実施要領等について説明が行われました。

巡回指導を行う事業内検査事業場、非会員検査業については事務局が選定し、ダイレクトメールで依頼文を送付後、該当事業場に事務局が電話で直接依頼の上、その結果を各地域協議会に知らせることでご了解をいただきました。

事務局では選定事業場の全てに依頼文を送付し、巡回指導実施についてのご理解とご了解をいただいております。

今後、各地域協議会では総会を開催し、事業内検査事業場と非会員検査業事業場及び巡回指導実施会員検査業の配分を決め、日程調整の上、巡回指導を実施していただくことになります。

本年度はこのような形で巡回指導を実施していただき、結果を総括の上、次年度の活動に生かし、スパイラルアップを図って行きたいと思います。

このように、各地域の特定自主検査水準の向上を、各地域協議会会員の自発的活動により実現して行きたいと思いますので皆様のご協力をお願いいたします。

2　第2回研修委員会開催される

7月24日、あぶらやにおいて、本年度第2回の研修委員会が開催されました。

平成27年度の現在までの研修進捗状況の報告・確認を行い、来年度の研修計画を大まかに決めました。長野地域職業訓練センターに来年度の施設使用予定を10月には提出する必要があるためです。

新規研修のフォークリフト月次点検については、フォークリフト検査業者の事情等を鑑みて、当面当支部での実施はせず、状況をみるということになりました。

当支部では研修委員は巡回指導員でもあるため、地域協議会会長会議の報告と巡回指導について依頼を行いました。

8月4日予定の危険の見える化（リスクアセスメント）セミナーの準備状況についても報告があり、先日行われた研修事業の本部監査結果についても報告がありました。

また、検査者資格取得研修の「実習」の進行について、講師の世代交代も考慮し、大まかな実施要領を作成しておくことになりました。

目次：

地域協議会会長会議開催される	1
第2回研修委員会開催される	2
研修事業、順調に進行	3
研修事業本部監査実施される	4
事務局だより	5

ハイライト：

- 1t未満フォークリフト運転技能特別教育申込み受付中です。1t以上技能講習へのステップとしてご活用ください。
- 整地運搬積込み用掘削用及び解体用機械の能力向上教育の申込みを受け付けています。
- 9月は「**全国労働衛生週間**」準備月間です。各社お取り組みをお願いいたします。（支部ホームページをご参照ください。）

3　研修事業、順調に進行

高所作業車実習の模様

6月10日~12日、高所作業車の検査者資格取得研修が長野地域職業訓練センターで行われました。受講者は17名で、昨年に比べて若干少なく、2班編成での実習となりました。これから各事業所において6か月の検査実習に入ります。

クレーン機能付油圧ショベル研修の模様

6月24日、クレーン機能付油圧ショベル安全教育が長野地域職業訓練センターで行われました。ショベルに付属するクレーン部分の安全教育を27名が受講され、修了証を授与しました。

フォークリフト実習の模様

7月7日~9日、フォークリフト検査業検査者資格取得研修が長野地域職業訓練センターで行われました。受講者は30名の定員満員で、3班編成での実習となりました。これから各事業所において6か月の検査実習に入ります。

7月16日、業務点検コース実務研修が、長野地域職業訓練センターで行われ、検査業から20名が受講しました。

7月22日、記録表作成コース実務研修が、ポリテクセンター松本で行われ、事業内検査者を中心に14名が受講しました。

「危険性を知り自ら判断、行動する」

4　研修事業本部監査実施される

7月14日、建荷協本部から遊部課長補佐がお見えになり、研修事業の実施状況について監査を受けました。研修事業については、全支部を3年に1回の頻度で監査することになっているそうです。

監査では検査業検査者資格取得研修を中心に詳しく見ていただきました。

講評において、①業務管理代行者の選任について、支部規定がないこと、②研修用機械について、作業開始前点検及び特定自主検査の実施確認について不十分な点があること等について指摘を受けました。

指摘事項については、後日文書でいただくことになりますが、文書指示を待たずに早めに対応して行く必要があるものと思います。

Q&Aコーナー

Q：フォークリフトのタイヤ部がクローラのものがあります。検査はどのように実施したらよいでしょう？

A：確かにこの機械には不整地運搬車のようなところもありますが、マストがありフォークリフトの機能を備えていればフォークリフトの検査が必要です。しかし、走行装置等についてはタイヤとは異なる点検が必要となります。

基本的には「フォークリフト特定自主検査記録表」（様式SR-LE-01-G）を使用し、走行体部には特定自主検査記録表「油圧式共通機体」（様式SR-KB-02-C）の「下部走行体」を使用します。それぞれの記録表の不要な部分は斜線を引いて削除しておきます。

最近、不整地における荷役運搬の用途に具するため、某メーカーが製造し、主に関東周縁で使われているとのことです。

以上、建荷協本部に確認済みです。

5　事務局だより

御嶽山の不明者捜索が9か月ぶりに再開された。57人が亡くなり、6人が行方不明となっている。

御嶽山は有史以来1979年まで噴火した記録がなく、霊山として信仰を集めてきた。最近では手軽に上れる‘安全な’山として人気で、多くの人たちが訪れていた。

信濃毎日新聞に、仲間9人で登り5人が亡くなり1人が行方不明というグループの記事があった。26日仕事を終え、翌27日の午前0時ころ集まった神奈川県内から車で出発し、仮眠後の午前8時に入山。全員火山とは知らず、入山届もせず、それぞれのペースで行動したという。安易で‘危機意識’の欠如が際立つ。

一方、死亡した者の近くにいた山岳ガイドの女性は、近くの岩場に身を隠し、頭に入っていた周辺の地理を頼りに、噴石が止んだ隙をつき、火口から最も早く離れる直線ルートを走った。山頂には約250人がいたが、噴煙を見て「たいしたことはない」「ほかの人も動いていないから大丈夫だろう」とすぐに避難しない登山者もいた。噴石があたらなかった運もあるが、「自分で判断し、行動する」意識が強かった。それが早い逃避につながった。「何かを持っていれば、何かを造れば大丈夫との考えだけではだめだと思う」と話す。

山の危険性が頭にある―ハザードマップがあるという‘危機意識’のあり方の大切さを考えさせられる。